

(1) 分科会①

■福井市 PTA 連合会に対して

- ・分科会の時間が足りない
- ・他学校の PTA の事業等を知りたい
- ・ブロック会議等の参加に対する移動の負担が大きい
- ・小規模校の意見が通りにくい
- ・オンライン会議や子連れでの参加ができるようにしてほしい
- ・困りごとを共有できる場が欲しい
- ・ブロック会議等で意見を出しても回答がない

■PTA の意義

- ・やってみると意外と楽しい
- ・仕事内容が分かれば何とかこなせる
- ・出合いが増える（他の PTA、先生、地域、他保護者）
 - ー子供の教育への関心が生まれる
- ・「大人と子供の総合学習の場」保護者の社会教育の場と言える
 - ー懇親会などでの交流
 - ー達成感のある事業を行う
 - ー一体感の創出（T シャツ）
- ・まとまる事で意見が発信できる
- ・親が地域や学校で活躍している姿を、子供に見せることができる
- ・卒業スピーチなど、自分の子供のイベントに直接携わることができる
- ・教員との意見交換により、学校運営の手助けができる
 - ーPTA 活動（事業参加）に不満がある教員
 - ーPTA と協議して、教員の負担軽減や事業配分の見直し
 - ー良い関係の構築
- ・平日の夜の会議に子供を連れていけるといい（子供との時間が少なくなる）
- ・子どもや地域に顔を覚えてもらえる
- ・みんなが役をやって、アットホームな感じで協力できる

■役員選出問題

- ・会長の負担が大きい
 - ー他団体や市 P 事業も兼務する
- ・人選に関して立候補をやめて、各地区や学年から選出、輪番制、くじ引き
- ・女性役員の選任、各単 P で「母親委員会」が置かれるケースが散見
 - ーベルマーク、作り物など定型化されている
- ・大規模校と小規模校で異なる悩み
 - ー役員人選：大規模…集めやすいように見えて他人事
 - 小規模…ほぼ強制的にやらなければならない
- ・引き受けざるを得ない環境で任命され、ネガティブな状態で取り組む　ー「いけにえ」

- 一次の候補を自分で探さないと抜け出せない
- ・事業縮小等の仕訳を行い、役員数も削減した
- ・PTA で何をしているかが分からない

■事業と予算

- ・特にコロナ明けで事業削減（引継ぎが不十分となり前例がわからない）
- ・予算の使い道に困る（特に大規模校）
- ・資源回収や通学指導（旗持ち当番）やバザーは、負担が大きい事業
- ・地域からの要請が多い
- ・特別会計の廃止（予算執行に時間がかかる）
- ・事業ごとに協力してくれる保護者を募集
- ・広報部を他活動にシフト
- ・ベルマーク活動の廃止

■入会問題

- ・会費を払わない人は、行事を実費で払う
- ・非入会の方には電話して、入会を催促する
- ・3年前から同意書を取る、30 人が入会しない（10%弱と思われる）
 - ー追加での勧誘は行っていない
- ・入るか？入らないか？という聞き方をすると、「入らない」と回答してしまう

■その他

- ・不登校児が学区を超えて通学する小（中）学校がある
 - ー児童や保護者も受け入れに寛容
 - ー登校頻度が増えたり、修学旅行に参加したり良い効果が出ている
- ・地区の行事に PTA 役員が駆り出される

（２）分科会②

■学校再編

【全般】

- ・学校の統廃合はいつか起こる事という認識を共有する
- ・再編時は当事者になる保護者だけではなく、将来的に保護者になる人（保育園？）も協議に入れるべき
- ・部活動の運営が出来なくなり、学校の統廃合につながるなど、部活動の地域移行と切り離せない問題

【森田地区】

- ・学校再編の準備委員会の運営が円滑でない（世代が異なるため）
 - ー新しい文化を作るのか？古い伝統を守るのか？
- ・人口が増えたことでコミュニティに入らない人が増加

【沿岸地域、中山間地域＝統合・閉校】

- ・再編後でも少子化のため、すぐに複式学級となるケースがある。
- ・複式学級という教育方法に対する疑念（学習順序）

- ・通学方法に関して十分な事前検証が必要（スクールバスの運用）
- ・過疎地域は通学路の危険が高い（バス通学しても、ラストワンマイルは徒歩）
 - －灯りが少ない、建物少ない、歩道が狭く車の往来がある
 - －県外からの来訪も多く、不特定多数の人間が存在する
- ・小規模校はスポーツ少年団などの選択肢が少ない
- ・旧学校ではなく地域他施設を学校として活用できないか？（旧スカットランド）
- ・小学校の閉校に合わせて、保育園もなくなることを危惧
- ・自身のエリア外に通いたいケースもある（沿岸地域→清水地区）
- ・地域で話をまとめてほしいと言われるが、そのプロセスが分からない
- ・統合に関して、自治会などの意見も入ってくるのでまとまりにくい
- ・地域の温度差もあり、それぞれが自身の地区を残したい思いが強くまとまらない
- ・閉校によって公民館が無くなることを危惧する声がある

【行政に対する要望】

- ・行政からより具体的な合併案を出してほしい
- ・地域での検討を行う上でも一定の決定事項があった方がスムーズな協議となる
- ・そもそも校区自体の再編をおこなってはどうか？
 - －足羽地区は市街化調整区域のため今後の発展の可能性も低い
 - －その地区で何世帯代も暮らせる地域づくりこそが重要

【提言案】

- ・福井市にしかない、福井市が全国に先駆けた新しい学校の在り方を目指せないか？
- ・PTA が人材提供や環境整備、地域との仲介など積極的に関与できる余地は大きい
- ・「豊かな自然環境」、「体験からの学び」、「英語教育」、「学区フレキシブル」、「児童、地域、社会との交流」
- ・特認校
 - －他学区からの通学、特色ある教育機会を提供
- ・教育特区
 - －金銭報酬以外での教員の働き甲斐の向上
 - －PTA が副業として課外事業
- ・福井型のフリースクール

■部活動の地域移行

- ・子どもの特性に合わせて、福井市内の好きな学校に通えばよい
- ・保護者側も待ちの姿勢ではなく、積極的に情報収集する必要がある

【起こりうる問題】

- ・家庭の事情でスポーツや文化活動に関われない児童が増加する
- ・総合的に子どもたちの体力や文化的なスキルは低下する
- ・指導する教職員もスポーツや文化活動の専門知識に乏しい
- ・学校や地域によって選択できるスポーツや文化活動に差が生まれ、公平性が無くなる
- ・プロ志向とエンジョイ思考の二極化が進んでいるし、今後更に顕著になる

- ・子どもたちの可能性をつぶすことになりかねない
- ・送迎、費用に負担がかかる

【学校に対して】

- ・指導する教職員もスポーツや文化活動の専門知識に乏しい人や年配がいる
- ・部活の顧問から解放されれば、先生の労働環境を大幅に改善できる
- ・部活動の顧問によって、教職員を志望しない学生が増えている
- ・部活動で使用しない学校施設を開放してほしい
 - －自習室としての活用
 - －外部の習い事の間として開放

【行政に対して】

- ・制度設計を無視した状態での決定事項となっているため不信感がある
- ・行政からの情報発信が少ない（ドリーム通信では不十分）
- ・情報が錯綜しており生徒に選ばせることが出来ない
- ・指導者バンクの周知がなされていない
- ・書面や電子媒体だけでなく、**Face to Face** での説明会が必要
- ・指導者に対する教育や登録制度を整備してほしい
- ・現在のスピード感では R8 年度の地域移行に間に合わない
- ・各学校施設利用のガイドラインを定めておかないと、競技ごとの取り合いが始まる
- ・多くのクラブが運営可能となるように、補助金等の制度を設立してほしい

【クラブや競技団体に対して】

- ・各中学校とクラブが連携し、会場や備品の貸し出し、送迎を協力
- ・辺境地域は支援の手が届かない（送迎範囲外と言われるケースがある）
- ・中学校体育連盟や各競技団体の考えを知りたい
- ・大会の運営は先生でなく、競技団体が受け持つ

【市 P に対して】

- ・市 P という大規模団体として、議員との情報交換などを通じて、より効果的な訴えを行ってほしい
- ・募集しているクラブ活動のリストが欲しい
- ・先行地域の事例を提示してほしい

■学校予算と PTA 予算

【PTA の意見】

- ・会費は概ね 300 円/月
- ・PTA の予算で寄付を行う場合、学校規模で差が生まれる
- ・PTA から学校への直接寄付ではなく、PTA→福井市→学校という流れの寄付もある
- ・校外学習のバス代や引率教員の入場料などを PTA 予算から拠出
- ・他校の PTA 予算の使い道を知りたい
- ・PTA として拠出できるものはどのようなものか理解できていない
- ・PTA としては子どものためになるのであれば、使ってよいという判断の単 P が多い

- ・ PTA の活動によって生まれた収入を特別会計に繰り入れて、学校備品を購入
- ・ 限られた学校予算であれば、効率的な配分のため学校数の削減は視野に入れる必要がある
- ・ PTA 活動が減少傾向のため、PTA 予算は余剰となる傾向にある
- ・ PTA 予算を学校で使用しているが、その明細などが報告されていない場合もある
- ・ 地元企業からスポンサーを募ることはできないか
- ・ ネーミングライツを使ってはどうか

【学校側の意見】

- ・ 学校施設への寄付は困難だが、市に申請しても納品までは非常に時間がかかる
- ・ 学校側は老朽化した設備や通学路の安全対策として予算を執行したい
- ・ 急を要する、空調故障や雨（水）漏れなどの対応ができない
- ・ 購入物品が業者からとなっており割高
- ・ 先生の備品など、自腹購入しているケースが散見される
- ・ 市の予算で購入した学校備品は廃棄も手続きが必要

【行政側の意見】

- ・ 人口減少により福井市の予算は今後、減少する可能性がある
- ・ 学校ごとに予算があるが、法的に用途が限定されるため使い勝手が悪い側面がある
- ・ 市から各学校に対して自由に使える予算は年間 10 万円程度
- ・ 国と市が折半して補助する事業があるが、市側の予算が足りず補助事業自体が執行できないケースがある

【市 P の課題】

- ・ 各学校から市への予算要請には限界があるため、市 P として提言できないか？
- ・ 予算増額や予算要求しやすい環境整備など市 P としてできることがあるのではないか？
- ・ 市 P として各単 P の予算状況の共有や、寄付のガイドラインを提示できないか？

（３）部活動の地域移行に関するアンケート結果

★QR コード



部活動の地域移行についての考えは「賛成 16.4%」「どちらかと言えば賛成 50.7%」「どちらかと言えば反対 20.5%」「反対 5.5%」「よく知らない 6.9%」でした。

心配に思うこととして多かった回答は「送迎の負担」「経費の負担」「責任の所在」でした。

（４）「殿下校思い出ツナグプロジェクト」

★QR コード (YouTube)



今回の研究大会でも発表のあった、「殿下絆分校プロジェクト」は、多様な人々との心のふれあいや、地域の方々との温かな交流により、多くの学びの機会を創出されています。

(5) メディア記事

日刊県民福井 7月13日 記事

学校再編、部活動 課題探る

福井市PTA連合会が研究大会



福井市の県自治会館で、福井市PTA連合会が「市PTA研究大会」を開いた。市内の小中学校のPTA役員や市職員ら約60人が参加。少子化が進む地域での学校再編や、教員の働き

き方改革に伴う部活動の地域移行について、悩みや課題を出し合った。参加者は14のグループに分かれて議論。各グループの代表者の発表では、小学校の再編が進むと子育てを

巡る環境が厳しくなり、さらに過疎化が進む可能性があることや、街灯が少なく、海沿いの地域では、通学時間が長くなると不審者に遭遇する不安が高まる、といった課題が挙げられた。

このほか部活動の地域移行が進むと、保護者の活動場所への送迎の負担が増すなどの訴えもあった。

大会で出た意見は、今年12月に開催が予定されている、同連合会が西行茂市長や吉川雄二教育長に要望を

勝山の中学再編計画
校章の選定方法承認
準備委員会
勝山市立の3中学校を統合し「勝山中学校」として勝山高校敷地内に新設する再編計画で、市立中学校再編準備委員会の本年度第2回会合が11日夜、市体育館シオアリーナで開かれた。

勝山中の校章の選定方法や、12月5日に入学生の交流会を開くことを承認した。

準備委員は学識経験者や学校関係者、保護者の代表ら

来訪 (12日)
▽坂井支社に着任あいさつ
谷島三國税務署長
赤ちゃん (自治体発表、敬称略)
△福井市 小路町、長谷川空愛(るる) △大地・安菜▽宮地町、小出和空(わく) △奈央・深幸▽洲1、宗石保聖(らひひ) △敦也(ゆつき) △篤秀・美田紀▽大島町、内藤樹希(ゆずき) △良樹・彩花▽北四ツ屋町、義輪泰千(たいち) △和生・百香
△あわら市 滝、中愛心(あいのん) △津太・幸恵▽花乃杜1、向川陽葵(ひまわり) △修平・妃依▽自由ヶ丘2、河合桃奈(ももな) △達也・知美▽花乃杜4、澤田清胆(せだ) △陸斗・史奈▽菅野、道場誠(まこと)

レイアウト・堀明日香
伝える会合での報告に反映される。
(松本桜希應)

福井新聞 7月18日 記事

部活動の地域移行や 学校再編で意見交換

市PTA連が研究大会

福井市PTA連合会の本年度研究大会がこのほど、同市の県自治会館で開かれた。写真。部活動の地域移行や学校再編といった課題について意見交換し、必要な考え方や市教委への要望などを探った。



大会はPTAの課題などを共有し、充実した活動につなげようと毎年開いている。市内小中学校PTAの代表62人が出席した。

殿下小中の活動発表の後、グループに分かれ悩みなどについて意見交換した。学校再編については市側へ具体案の提示や校区再編を考へる必要があるなどの声が出た。討論での意見は、12月に開催される市長・教育長と語る会での提言に反映させる。(前田 暉)